

## 授業概要

昨年の2024年パリ夏季オリンピックは、フランスの豊かな文化を世界に再認識させた。フランス語はその文化の核であり、ラテン語を起源とする英語やスペイン語、イタリア語など他の言語への理解を深める道標でもある。特にファッション、料理、アート、国際ビジネスなどの分野では、フランス語の習得がキャリアを一段上へと押し上げる重要なスキルとなる。

本講義では、フランス語の基礎文法を体系的に学びながら、「読む」・「書く」・「聴く」・「話す」の4技能をバランスよく鍛える。前期の「フランス語I」の授業につづいて初心者にも配慮したビデオ教材を用い、実践的な会話演習を通じて、日常生活や旅行で役立つフランス語を習得できるよう講義する。さらに、フランス映画の名場面やシャンソンを鑑賞しながら、言語だけでなく文化への理解を深め、学びを楽しく魅力的なものにする。

フランス語を選ぶことは、自分らしさを際立たせるツールを手に入れ、知的で国際的な視野を広げる選択である。受講生はこの講義を通じてフランス語とその文化がもたらす可能性に触れ、新たな未来への扉を開くことになる。

## 授業計画

第1回	ものの尋ね方 — 疑問副詞 / 「パリにある日本文化を探してみよう」
第2回	ブティックで買い物 — 中性代名詞 en、疑問形容詞 / 「おしゃれな買い物をフランス語で楽しむコツ」
第3回	友人を招待する — 命令形 / 「フランス流おもてなしのマナー」
第4回	ヨーロッパのスポーツ — 非人称構文 / 「『ツール・ド・フランス』で知るスポーツと文化」
第5回	友だちを紹介する — 指示代名詞 / 「ノルマンディー地方のグルメを語る」
第6回	パリのデパート — 比較級・最上級 / 「フランス語で服のサイズや好みを伝える方法」
第7回	数を数える — 数詞 / 「フランス語で時刻や日付をマスターしよう」
第8回	旅の話をする — 補語人称代名詞 / 「天候や旅先の思い出を伝える表現」
第9回	フランスの乗り物事情 — 代名動詞 / 「フランスで役立つ自己紹介をさらに一歩進める」
第10回	ルーアンの街を歩く — 複合過去形、過去を表わす状況補語 / 「歴史が刻まれた街を探索しよう」
第11回	過去について語る — 半過去形、大過去形 / 「バカンスの思い出をフランス語で語る」
第12回	別れを告げる — 単純未来形、前未来形、未来を表わす状況補語 / 「未来の計画とパリでの別れのシーンを表現する」
第13回	南フランスの紹介(1) — 条件法現在形、条件法過去形 / 「プロヴァンスの香りや芸術の魅力を発見」
第14回	南フランスの紹介(2) — 接続法現在形、接続法過去形 / 「南仏の絶品料理とそのストーリー」
第15回	これまでのレッスンのまとめ / 「フランス語検定4級のポイント解説」
第16回	学期末試験(筆記試験)

## 到達目標

前期の授業を踏まえた後期の学習課題をこなせば、「文部科学省後援実用フランス語技能検定試験4級」以上の資格を取得することができる。長いスパンで考えればフランス語はそれぞれの将来の目標に近づくためのスキルとなり、人生を必ず豊かなものにしてくれる。一緒に楽しく学ぼう。

## 履修上の注意

前期の授業を履修しただけではフランス語の基礎を十分に習ったとは言えないので、過去に「フランス語I」の単位を取得した学生が「フランス語II」の授業を履修することが望まれる(履修年度は問わない)。外国語は声に出して発音してこそ身につくため、授業で積極的に発言していくことが期待される。なお、原則として遅刻は認めない。また、学習に集中するための常識的なマナーを守るように。

## 予習・復習

授業で指示された予習・復習をきちんと行い、課題をこなすことが求められる。実践してみよう。

## 評価方法

学期末試験(50%)、課題(30%)、授業参加(20%)による総合評価を行う。学びを通じてフランス語の楽しさを見つけ、それを将来の目標に結びつける姿勢を重視する。

## テキスト

- 教科書名: “Elle est gourmande! 1 Nouvelle Edition” (『新・彼女は食いしん坊! 1』)
  - 著者名: 藤田 裕二
  - 出版社名: 朝日出版社
  - 出版年 (ISBN): (最新版) 2018年 (ISBN978-4-255-35231-2 C1085)
- また、随時プリントを配布する。